

川崎港の生きもの調査

川崎港は埋め立てで作られた港で、国際貿易港として利用されており、超大型タンカーから小型船まで、毎日たくさんの船が利用しています。この川崎港にはどのような生きものが生息しているのでしょうか？

みなさんも気軽に足を運べる川崎港の海で調査を行ったところ、護岸や岩などに付着して生活する付着生物や海藻、海底で生活する底生生物、魚類、プランクトンなどが確認されました。

ここでは調査の様子や調査でみられた生きもの、水質調査で分かったことなどを紹介していきます。



ロップ君

葉っぱから落ちた一粒の滴（ドロップ）から誕生しました。

湧水の近くの木のほこらに住んでいるロップ君は、人見知りな一面もありますが、川や海の「水」をきれいにすることの大切さをみんなに伝える活動をしています。

調査した場所

調査は東扇島西公園と多摩川河口で行いました。

●調査場所



公園へのアクセス ※調査場所の詳細情報は42ページに記載しています。

東扇島西公園

○バスで

JR川崎駅東口市営バス「川07系統 東扇島西公園前行」
<東扇島西公園前>下車。

○車で

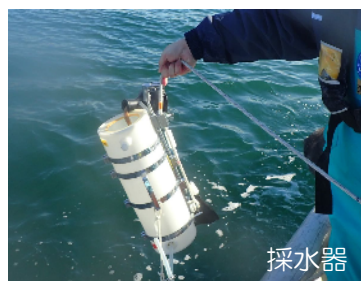
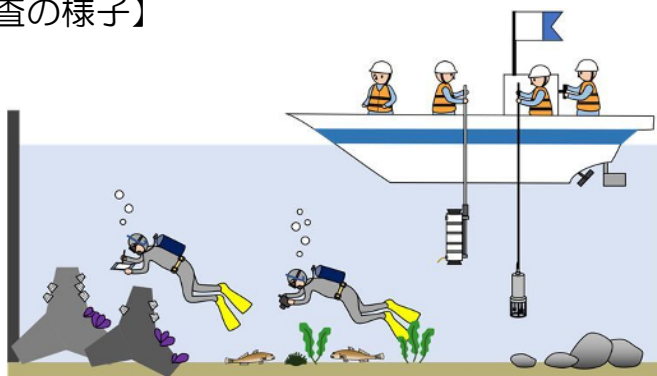
国道132号を東扇島方面に向かって海底トンネルを抜け、
国道357号線を横浜方面へ。

調査のようす

調査の内容は次のとおりです。

- ①水質・底質調査
- ②潜水観察調査
- ③魚介類調査
- ④底生生物調査
- ⑤卵・稚仔魚調査
- ⑥プランクトン調査
- ⑦環境DNA調査

【調査の様子】



①水質・底質調査

水質計を使い、水温や塩分、溶存酸素量（DO）、pH、濁度を観測しました。また、採水器を用いて海水を、採泥器等を用いて海底の泥を採取し分析しました。⑦の環境DNA調査でも採水器を用いて試料を採取し、水の中に含まれるDNA情報の分析を行いました。



②潜水観察調査

海の中に潜り、そこに生息する魚介類や、生えている海藻などを観察しました。



④底生生物調査

海底の砂や泥を採取し、その中に生息するゴカイ類や貝などを調べました。



③魚介類調査

ネットを使って海底付近に生息する魚介類を調べました。



⑤卵・稚仔魚調査

ネットを使って海面付近に生息する魚卵や稚仔魚を調べました。



⑥プランクトン調査

採水器で植物プランクトンを、目の細かいネットで動物プランクトンを調べました。